

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700456		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホームえぞりす・花しょうぶ(えぞりす)		
所在地	河西郡芽室町東3条1丁目2番地		
自己評価作成日	令和4年3月13日	評価結果市町村受理日	令和4年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0194700456-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

えぞりすでは入居者様の重度化が進んでいますが、出来る事を失わないように体調に配慮しながら家事等のお手伝いや、その人に合った個別のリハビリ、レク等をし日々、活気や笑顔のある生活を送って頂いています。また、創作活動に力を入れており今年度も町民文化展に出展しています。閉ざされるホームではなく、より多くの地域の方々に理解して頂けるように努力しています。他にも季節の食べ物(節分では恵方巻き、ひな祭りでは桜餅等)や慣わしを大切にしており入居者様と一緒に作り季節を感じています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームえぞりす・花しょうぶ」は芽室町中心部の3階建てビルの2〜3階に位置し、1階は町の委託を受け同法人が運営する介護予防施設が入っている。向い側には同じく町の介護予防施設や、その建物の隣には同法人のグループホームがあり、合同で運営推進会議を開催している。法人では町内に7ユニットのグループホームを運営しており、その時々状況に応じ法人内での異動もある中で、どこに配属になっても困らない様に書類等の様式を統一している。職員の意識やスキルを高める研修は法人による実施に加え、各ユニットの学習委員が中心となり実施している。法人では法人理念と運営方針を掲げており、事業所ではその理念を具体化し地域密着を取り入れた各ホーム理念を定めている。更に生活の再構築を目指すケアとして「ゆったりとした暮らし」「穏やかで安らぎのある暮らし」「自分で出来る喜びと達成感のある暮らし」「自分らしく誇りを持った暮らし」を事務室内に掲示し周知を図っている。現在、感染症の流行で利用者は外出する事が難しくストレスが溜まりがちになっており、職員はこれまで以上に利用者の心情に思いを馳せ、具体策として「思いつきノート」の活用で利用者本位の介護提供に努め、夏祭り、秋祭り、ひな祭り、クリスマス、その他たくさんの行事を実施し楽しみを提供している。家族への報告は随時行っているが、月一度発行の事業所便りには、利用者の写真を多く載せ、担当者によるコメントが添えられ家族との信頼関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、ホームの玄関に掲示し目に触れるようにしています。職員は理念で共有し実践出来るように取り組んでいます。	法人理念、運営方針に加え、地域密着を取り入れたグループホーム理念を掲示している。更に、生活の再構築を目指すケアとして具体的に掲示し職員間で周知を図り、日々のケアに反映している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナの影響がありましたが町民文化展に参加し一部の入居者様は見学に行くことが出来ました。しかしそれ以外は面会の中止や外出の禁止があった為、地域との交流は難しかったです。	町内会に加入し交流や協力関係を築いている。毎年開催の町の文化展には利用者作成の作品を出品している。感染症の流行以前はボランティアの訪問等があり、再開が待ち望まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会を持つ事は難しく活かせませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度と同じくリモートでの推進会議を行っています。テーマを決め推進会議の案内を全家族に郵送し会議に反映出来るように努めていますが、それでもご家族の参加が難しい為、電話の時等にご意見を聞きサービス向上に努めて行きます。	運営推進会議は、近隣にある同法人のグループホームと合同で開催している。現在はZOOM開催となっており家族の参加に限られているが、全家族に案内と共に話すテーマを明示し、質問や意見を求め双方向の開催を目指している。議事録は全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	なかなかお会いする機会は少ないが運営推進会議以外では電話で連絡を取り合い協力関係を築ける様に心掛けています。	行政や公共機関等の窓口は法人課長が携わっているが、管理者が報告に出かけたり、運営推進会議への参加を得て情報交換やアドバイスをもらうなど、連携に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の会議にはホーム長が参加し各ホームへ持ち帰り会議等で職員にも周知するように努めています。また資料は常に目を通せる所に掲示し身体拘束ゼロのケアに取り組んでいます。	各グループホーム管理者により身体拘束廃止委員会が開催されている。職員研修は法人主催のウェブ研修や各グループホーム学習委員会が企画実施する研修で、身体拘束が及ぼす弊害を周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の身体・精神的な変化に気配りをし変化があった場合ホームの職員全員で話し合い虐待ゼロを目指しています。また職場内でも話しやすい環境作りを努めています。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に後見人補佐をつけていらっしゃる方がいる為、実際に勉強させて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書を説明し理解と納得をして頂き一部ずつお渡ししています。また、分からない事がないか等も聞いて頂ける雰囲気作りに努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には電話で近況ををお伝えしたり毎月事業所便りを発行し、その際にも報告をしています。またご家族満足アンケートを実施し要望や希望の把握に努めサービスの向上に反映するようにしています。	感染症の流行以前は年2回、家族会を実施し親睦を図っていた。毎月発行の事業所便りには写真を沢山載せると共に、利用者担当者によるコメントを添えて報告している。年に一度、家族アンケートを実施し運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のフロア会議にて職員の意見や提案を聴く機会を設けています。また反映出来るよう普段より意見交換しやすい環境作りにも努めています。管理者は次年度へ向けて各職員と面談を行ったり各職員の意見を反映させた目標管理シートを作成しチームケアに取り組んでいます。	月に一度のフロア会議や日常業務時、更に思いつきノートを活用し意見や提案が表明しやすい状況となっている。職員は個人目標を設定しており、管理者が纏め目標管理シートで方向性を定めている。資格取得に法人の支援があり、意欲を持って働くことができる環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の努力、実績などを把握するように心掛け負担にならないような勤務体制作りを工夫し常に向上心を持って働けるよう環境、条件整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度もコロナの影響で、なかなか研修に参加する事は難しい状況でした。グループホームでの勉強会も紙面上の物でしたが参加後は報告書を提出し、フロア会議で意見交換を行ない情報の共有に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度もコロナの影響で行えませんでした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの訴えに、耳を傾け不安や要望をしっかり受け止め、安心して生活して頂けるような関係作りを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の不安や要望をお聞きし支援を行なうように努めています。入居後も来設時や電話等で情報交換を行ない思いをくみ取るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活歴を把握する為、ご本人やご家族と積極的に話すよう努めています。他のサービス利用の必要がある場合には関係機関より情報を収集し速やかに対応出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、その人に出来る作業やお手伝いを一緒にすることでコミュニケーションを図り、また暮らしを共にし支え合える関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会中止も続きましたが訪問しやすい環境作りに努めています。来設時や電話等の際には、ご家族の思いを把握し共に入居者様を支える事が出来る関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度も面会や外出が、ほとんど中止の為、行えていません。	以前は行きつけの店に出かける事もあったが、現在は姉妹と電話で話す等の支援に努めている。季節ごとの行事の中で着物を着たり、ぼた餅を作って味わうなど、利用者のこれまで経験してきた暮らしを大切に支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様は孤立せず居間や食堂で過ごされお話ししたりレクリエーションなどで交流を図っている。耳が遠い方は職員が間に入り交流のお手伝いを行っています。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度もコロナの影響で行えていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り職員は入居者様とお話する機会を作り、その際、会話や表情、思いや意向を把握する事に努めています。	職員、管理者は利用者の生活歴を把握すると共に会話や様子から暮らし方の希望や思いを把握する様に努めている。表明できない利用者には表情や様子から意向を把握し、職員間で共有し実現に向けて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からお話をお聞きし必要時には関係機関から情報を提供して頂き支援に活かせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々現状把握に努めご本人が出来る事は積極的に行行なって頂き、変化があれば生活記録や連絡ノートを活用し職員全員に周知し把握出来るように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望や要望に努め毎月のカンファレンスを参考に担当者がモニタリングを行ない現状に即した介護計画を作成しています。	利用者、家族の意向を基に、担当者によるモニタリング、職員参加のカンファレンス、更に私の暮らし方シート、思いつきノートを活用し、現状に即した介護計画を作成し、定期的に見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の現状を記録し、職員間では連絡ノートを活用し常に新しい情報を共有出来るように努めています。またチームケアの実践や介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じてご本人、ご家族のニーズに対応出来るよう必要に応じて本体の老健の関係者へ相談を行ない意見を頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め入居者様が安全で安心して豊かな生活を楽しめるように支援させて頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週でホームの主治医に往診して頂き、継続的な医療を提供しています。専門医受診の際には主治医より書面を頂きご家族に受診をして頂いています。受診時は受診経過表へ、往診時には生活記録に個別に記入しています。	利用者や家族と話し合い、ほとんどの利用者が協力医の往診を受けているが、他科への受診は家族にお願いしている。週に一度、法人の訪問看護師による健康管理が行われている。訪問看護は24時間対応となっている。	

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に変化や気になる事がある場合には直ぐに相談し入居者様の健康管理に適切な対応が出来るように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には書面にて日常生活、注意点等を資料としてお渡ししています。入院中もご家族、病院関係者との連絡を密に取り退院後も安心した生活が出来るように支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書に記載されている重度化した場合における指針を説明し、ご本人やご家族の希望を確認しています。必要時には主治医、ご家族、関係者で早い段階から話し合いをし方向性を共有するように努めています。	入居契約時に重要事項説明書に記載されている重度化した場合における(看取り)指針で説明し同意を得ている。必要時には利用者、家族の意向を尊重し希望に沿った支援に努めている。看取り実施時には法人職員による研修を行いチームケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の自己学習にて実践力を身につけ事故や急変時に早急に対応ができるように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回夜間想定で行っています。ケア別対応も出来るようにフロア会議にて話し合っています。	年2回の避難訓練を実施している。感染症の流行以前は町内会長も参加しての火災訓練を実施し具体的に役割を伝えている。今年度は1回目は夜間想定での火災避難訓練、2回目は通報訓練、新規採用職員による消火訓練を実施している。3か月に一度、自己点検を行っている。	火災訓練は行っているが他の災害、特に冬期の停電時の寒さ対策等を法人を交えて早急に検討し、備えて行く事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様1人ひとりの人格を尊重し思いやりのある対応を常に心がけています。記録は鍵のかかるロッカーに保管しています。	利用者が使用する衛生用品等は名前が見えない様に配慮している。職員の呼びかけは苗字にさん付けを基本とし、職員は利用者の尊厳や羞恥心に配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現が出来ない方もいらっしゃいますが、なるべくご本人の思いをくみ取る努力をしています。自己表現が出来る方は自己決定をして頂けるように会話に工夫をする場面を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先するのではなく1人ひとりの表場を観察しながら、その人のペースを大切に希望にそって支援が出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、その人らしい身だしなみが出るよう支援しています。また毎日着る洋服は一緒に選んで着て頂いています。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の有する力に合わせた食事の準備、盛り付けや片付け等を入居者様と職員と一緒にこなしています。誕生会等の特別メニューでは入居者様の希望をお聞きしています。	職員が季節感やバランスに配慮して立てた献立を利用者も手伝い、調理し提供している。行事食や手作りおやつ、弁当を取り寄せたりと食事が楽しめる様に提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事形態を把握し適切な食事量、栄養のバランスが確保出来るように努めています。水分摂取は一覧表に記入し目標数量も設置し職員全員が把握出来るようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ない、その方の力に応じ職員が支援しています。また必要な方には定期的に歯科医師に往診して頂き処置をお願いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄を一覧表に記入しタイミングを把握出来るようにし、感覚や本人の状態、意思表示により声掛けや誘導を行ない自立した排泄が出来るよう支援しています。可能な限り布パンツにパットで対応しています。	利用者全員の水分量、排泄回数を記録し、タイミングを把握してさり気ない誘導でトイレでの排泄を支援している。出来るだけ布製の下着になるような支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一覧表にて排便チェックを行ない食事や水分量にも気を配り、乳製品も出来る限り摂って頂いたり、またラジオ体操やフロア内の歩行運動等の適度な運動も取り入れて頂くよう支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意向、体調、希望等を考慮し最低週2回は気分よく入浴をして頂けるように支援しています。	週に2回は入浴出来る様に支援している。入浴剤等で気分転換を図りながら職員とゆっくり会話し入浴を楽しんでいる。利用者の状況に合わせて足浴やシャワー浴など、柔軟に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの習慣に合わせた休息を取って頂いています。出来る限り日中は適度な運動やレクリエーション、作業に参加して頂き夜間は良眠出来るよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋を確認し服薬についての理解、把握をするように努めています。変化があった場合の対応として連絡ノートを活用し周知状態の変化については常に確認を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍の為外出やドライブ等は出来てはませんが気温が高い日は外部との接触がない日に外気浴をし季節を感じています。また日々その方の好む作業やレクリエーションを提供し役割のある生活を送って頂ける様に努めています。		

グループホームえぞりす・花しようぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度も外出の機会は、ほとんどなかったですが室内で出来る楽しみごとを増やしています。	今年度は感染症対策のため外出は出来なかったが、近隣を散歩したり、入り口前のベンチで日光浴を楽しんでいる。職員は外出出来なくても楽しめる様に室内での体操やゲーム、お祭りなど利用者に楽しんでもらえる様に工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族と相談の上ホームでお預かりし管理させて頂いています。希望の入居者様は小銭のみ持ち歩いている方もいらしゃいます。購入したい物があれば職員が代行しています。今年度も一緒に買い物に出掛ける機会はありませんでした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く機会はありませんがキーパーソン様から姉妹へ電話をしお話をしたりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンで光を調節したり、温湿度計を設置し快適に過ごせるように管理し家庭的で落ち着いた空間作りに努めています。また入居者様と一緒に作成した創作物を壁に展示したり廊下には行事ごとの写真を掲示し入居者様にも楽しんで頂いています。	二方向に広く窓が取られ明るい食堂兼リビングは温度や湿度の調節がされて居心地よい空間となっている。利用者の作品や写真が飾られたり観葉植物が置かれ、家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂で過ごされる事が多く自然と居場所も決まっており、お話されたり歌を歌ったり独りになれたりと思い思いに過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの物をお持ち頂くようお話しています。入居者様一人ひとりが使用しやすいように、それぞれの物の配置も違いご本人、ご家族とも相談しながら居心地がよく安全に過ごせるように工夫しています。	居室には洗面台が設置されている。利用者は筆筒等の使い慣れた家具を配置し、写真や好みの物を飾りその人らしく落ち着いて過ごせる様な部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室の場所がわかりやすいように札や表札を付け目に付きやすい高さや位置にも工夫しています。車椅子の方や歩行器の方にも手すりを活用し自立支援を行なっています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700456		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホームえぞりす・花しょうぶ(花しょうぶ)		
所在地	河西郡芽室町東3条1丁目2番地		
自己評価作成日	令和4年3月10日	評価結果市町村受理日	令和4年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsvoCd=0194700456-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームえぞりす・花しょうぶは芽室町の中心街にあり公共施設や病院なども近く便利な場所にあります。建物の1階と隣には芽室町が運営する高齢者介護予防支援事業のひまわりがあり、その隣には同じく三草会のグループホームもあり、お互いに相談しながら日々生活しています。私達が特に力を入れている事は毎日の生活の中でお手伝い、作品作りなどそれぞれが出来る事をして頂き役割を持ち、楽しみの持てる生活を送って頂く事、1人ひとりの意思や意向、意欲に寄り添ったケアを心掛けている事です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し職員全員で実践につなげる様に会議で話し合い、常に取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近年はコロナの影響で外出や面会機会が少なく交流を持つ事がほとんどないに等しい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会を持つ事はありませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	リモートで行なっています。又ご家族様からの意見や感想は案内と一緒に送り、FAXで返信して頂く様にして参加して頂き、サービスの向上につなげる様に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	お会いする事は少ないですが、必要に応じて役場に出向いたり、電話連絡を取っております。リモートの運営推進会議にも参加して頂いているので、その際などにも担当者からの感想もあります。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の会議にはホーム長が参加し。各ホームへ持ち帰りフロア会議などで職員に周知するように努めています。又、資料は何時でも見れる場所に保管しております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の身体・精神的変化に気を配り、何か変化があった場合はホームの職員全員で話し合い原因究明に努め虐待ゼロを目指しています。又、職場内は話しやすい環境に努めています。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方はおりませんが、研修などに出来るだけ参加して知識を深め、必要な時にはいつでも活用できる様に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には契約書、重要事項説明書の説明を行ない理解、納得して頂き、各一部お渡ししています。都度、疑問に思った事を聞いて頂ける雰囲気や関係作りに努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には電話で近況をお話したり、毎月発行の事業所便りで報告しています。又、ご家族満足度アンケートを実施し要望や希望の把握に努め、サービスの向上に反映するようにしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のフロア会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映できるように努めています。又、普段より意見交換しやすい環境作りを心がけています。各職員の意見を反映させた目標管理シートを作成している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の努力、実績などを把握する様に心がけ、負担にならないような勤務体制作りを工夫し常に向上心を持って働けるような環境、条件整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資料でのグループホーム勉強会やオンライン研修などにて個々の知識を高めています。又、技術面で不安な箇所がある場合は個別にレクチャーするなどして対応しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行なえていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの訴えを見過ごすことなく、お話を聞き不安や要望をしっかり受け止め安心して生活して頂ける様に心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の不安や要望をお聞きし支援を行なう様に努めています。入居後も来設時や電話などで情報交換を行ない思いをくみ取るように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活歴を把握する為、ご本人やご家族と積極的に話すように努め、必要に応じて法人の課長に相談し速やかに対応出来るようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でその人に出来る作業やお手伝いを一緒にする事でコミュニケーションを図り、より綿密な関係を築ける様に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問しやすい環境作りを心掛けています。面会中止が続く中、来設時や電話などの際にご家族の思いを把握し共に入居者様を支える事が出来る関係作りを心がけています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出がほとんど中止の為、行えていません。刺し子を行なう入居者様の為に道具を用意して継続出来る様に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様は居間や食堂で過ごされる事が多く、楽しくお話ししたりレクリエーションなどで交流を図っています。不都合が生じた場合は職員が間に入り支援を行なっています。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今迄は病院や他施設へ面会に行っておりましたが、近年はコロナでそれも行なえていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は出来る限り入居者様とお話する時間を作り、会話や表情より思いや意向を把握する事に努めています。気づきを「私の暮らし方シート」を活用して記入して変化を知ります。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からお話を伺い、必要時には関係機関から情報提供して頂き、支援に行かせる様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々現状把握に努めて、自身で出来る事は積極的に行なって頂き、変化があれば生活記録や連絡ノートにて職員全員に周知把握できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望や要望の把握に努め、毎月のカンファレンスを参考に担当者がモニタリングも行ない、現状に沿った介護計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の現状を記入し申し送り職員間には常に新しい情報を共有できる様に努め、支援の実践や介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じてご本人、ご家族のニーズに対応できるように、必要時には法人課長に相談を行ない意見を頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、入居者様の安全で安心して豊かな生活を楽しめる様に支援させて頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週でホームの主治医に往診して頂き、継続的な医療を提供しています。専門医受診の際には主治医より書面を頂きご家族に受診して頂きます。受診時は受診経過表に往診時は生活記録に個別で記録しています。かかりつけ医がホームの主治医ではない入居者様もあり、ご家族対応で受診して頂いている。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に気になる点や変化がある場合には相談して入居者様の健康管理に適切な対応ができる様に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはその方の日常生活、注意点などを書面にて資料としてお渡ししています。入院中もご家族、病院関係者との連絡を密に取り退院後も安心した生活が送れるように支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の重要事項説明書に記載されている重度化した場合における指針を説明し、ご本人やご家族の希望を確認しています。必要時には主治医、ご家族、関係者で早い段階から話し合いをして方向性を共有するように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の自己学習にて実践力を身に付け急変時や事故時に早急に対応出来るように努めます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回は実施し一度は夜間想定で行われています。地震想定はホーム内の危険箇所を確認しケア別対応も出来るようにフロア会議にて話し合っています。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様1人ひとりの人格を尊厳し思いやりのある対応を心掛けています。記録は鍵のかかるロッカーで保管を行なっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話しする機会を作る事に努め、ご本人の思いをくみ取るようにし、出来る限り自己決定をして頂けるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先させる事なく、1人ひとりの表情を観察しながらその方のペースにて希望に添った支援が出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、その方の希望された身だしなみが出来るように支援しています。又、毎日着る服を一緒に選んだりもしています。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の有する力に合わせた食事の準備、片付けなどを一緒に行っています。誕生日ニューの献立は入居者様の希望を伺い作成するように心掛けています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事形態を把握し適切な食事量、栄養のバランスが確保できるように支援しています。水分摂取は一覧表に記入し目標数量も設置し職員全員が把握できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、その方の力に応じ職員が支援を行っています。又、必要な方には定期的に歯科医師に往診して頂き処置をお願いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄を一覧表に記入しタイミングを把握できるようにしています。間隔や本人の状態、意思表示により声掛け誘導を行ない、自立した排泄ができるように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一覧表にて排便チェックを行い、水分量にも気を配り又、乳製品をできる限り摂って頂き、ラジオ体操、立位運動、ボール運動などの適度な運動もして頂く様に支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回、ご本人の意向、体調、希望などを考慮し気分良く入浴をして頂けるように支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの習慣に合わせて休息を取って頂いていますが、できる限り日中は適度な運動やレクリエーション、作業に参加して頂き、夜間は良眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋を確認し服薬について理解、把握をするように努めています。変化があった場合はすぐに連絡ノートにて周知し、症状の変化については常に確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節、天気が良ければ建物周辺の散歩にて気分転換をして頂いています。又、日々その方の好む作業やレクリエーションを提供し役割のある生活を送って頂けるように努めています。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	皆さんで外出する機会はありませんでした。個別に建物周辺の散歩は行なえています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族との相談の上ホームでお預かりし管理させて頂いています。購入したい物があれば職員が代行しています。今年度も一緒に買い物に出掛ける事は出来ませんでした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望にてご家族へ電話を掛けたり、ご家族から電話が掛かってきてお話ししたりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンで光を調整したり、温湿度計を設置し快適に過ごせるように管理し、家庭的で落ち着ける空間作りにも努めています。又、入居者様と一緒に創作物を作成し展示したり、廊下には行事ごとの写真を掲示し目で見て楽しんで頂けるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様、居間や食堂で過ごされる事が多く、自然と居場所も決まっている様子。個別にお話ししたり、皆さんでレクの後お話ししたり、歌を唄ったり、独りでテレビを見たりと思いついた過ごし方が出来ていると思います。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は馴染みの物をお持ち頂く様にお話しています。入居者一人ひとりが使用しやすい様、それぞれ物の配置も違いご本人、ご家族と相談しながら居心地良く安全で過ごせるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室の場所がわかりやすい様に札を付け目につきやすい高さや位置にも工夫しています。車椅子の方にも手すりを活用し自立支援を行っています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームえぞりす・花しょうぶ

作成日：令和 4年 4月 7日

市町村受理日：令和 4年 4月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の寒さ対策などを備えがされていない。	法人として早急に検討し備える様に努める。	法人内7ホームのホーム長と課長を交え災害時の寒さ対策はどの様にしたら良いか話し合いをします。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。